棚倉城跡石垣修復工事現場説明会　資料

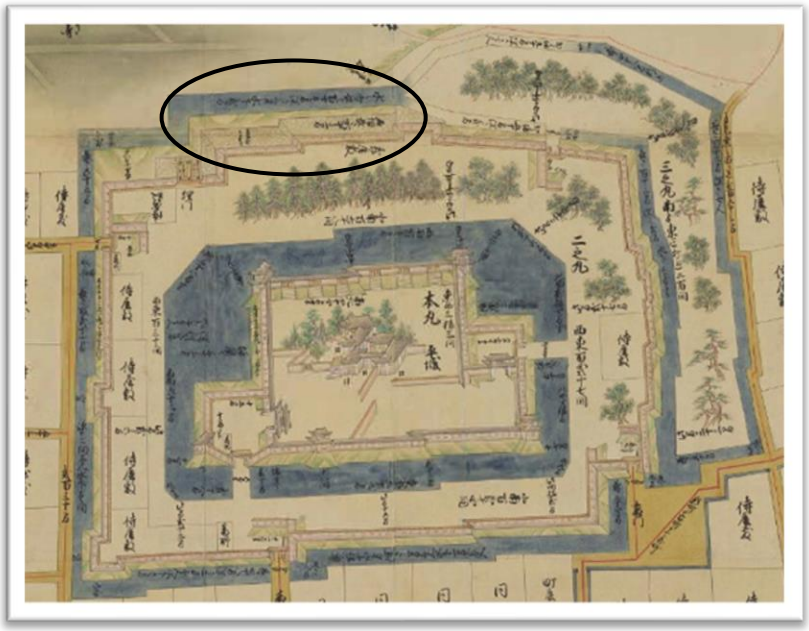
令和 8 年 10 月 31 日　棚倉町教育委員会　生涯学習課

1.棚倉城跡について

棚倉城跡は、久慈川の河岸段丘上に築かれた、本丸・二ノ丸・三ノ丸（林曲輪）からなる輪郭式平城です。

寛永 2 年（1625)、馬場都々古別神社を現在の社地に遷宮し、新規築城されました。江戸時代に入ってからの築城は全国的にも大変珍しい事例となっています。本丸には天守ではなく御殿を築き、政治を行っていました。城主は 8 家 16 代替わり（244 年間)、慶応 4 年（1868）戊辰戦争により落城しました。

お城を囲む土塁・水堀・土塁上に存在した多門櫓が築城当時の様子をよく留めていることが評価され、平成 31 年（2019）2 月 26 日に国の史跡として指定されました。



正保城絵図（丸で囲んだ箇所が石垣）



正保城絵図に描かれた石垣

二ノ丸西側の一部には総延長約 160mに亘って石垣が築かれています。石垣は野面石主体の「布積み崩し」で、随所に「鏡石」を配するなど、文禄・慶長期の石垣のような古式の特徴を有しています。平成 23 年の東日本大震災、令和３年及び令和４年の福島県沖地震により、一部が崩落しました。そのため、令和５年度より、石垣整備事業を進めています。

『YouTube』にて動画を公開中です。（福島県棚倉町生涯学習課のページ）

←←← ◆国指定史跡 棚倉城跡石垣復旧までの取り組み

◆【棚倉城石垣整備】R8.石垣積み直し（再生リスト）→→→

２．令和８年度石垣復旧工事の概要について

令和６年度・令和７年度に回収・解体した石垣の積み直し工事を実施しています。今年度は、石垣中央部積み直しの実施し、令和９年度に石垣北側の積み直しを実施し、令和１０年度に一般公開予定となっています。スケジュールについては、下記の表のとおりとなっています。

棚倉城跡二ノ丸石垣修復計画

No.	作業内容	内容・目的	作業箇所	作業年度
1	崩落状況の記録	石垣崩落状況の写真撮影および地上レーザー測量	第1面 第3面	完了 令和4年、5年
2	ボーリング調査の実施	地番調査。旧地形の復元と地番強度を確認	第3面	完了 令和5年
3	崩落石垣の搬出	崩落石材のナンバリングと、1点ごとの位置を測定し搬出	第1面 第3面	完了 令和6年
4	崩落石材カルテの作成	石材1点ごとの規模・形状、加工の痕跡を記録。石材再利用の判定。	第1面 第3面	完了 令和6年
5	崩落石材位置の照合	被災前の写真をもとに、崩落石材の元位置を特定。	第1面 第3面	完了 令和6年
6	発掘調査	石垣天端背面盛土の調査、石垣裾部の根石確認調査。	第3面	完了 令和6年
7	崩落原因の究明	上記1～6の調査結果から推定。	第1面 第3面	完了 令和6年
8	解体範囲の設定	上記1・6の調査結果をもとに石垣の追加解体が必要な範囲を設定する。 解体に対する設計。	第1面 第3面	完了 令和6年
9	土地の公有地化	上記1・6の調査結果をもとに修復範囲の私有地を買い上げ。	第1面 第3面	完了 令和6年
10	解体	石材のナンバリングを行い順次解体。	第1面 第3面	完了 令和7年
11	解体分石材カルテの作成	石材1点ごとの規模・形状、加工の痕跡を記録。石材再利用の判定。	第1面 第3面	完了 令和7年
12	発掘調査	解体箇所の背面盛土調査を実施。	第1面 第3面	完了 令和7年
13	修復方法の検討	石垣の復元形状の検討。弱点の克服の検討。積み直しのための設計。	第1面 第3面	完了 令和7年
14	解体	石材のナンバリングを行い順次解体。	第2面	令和8年
15	解体分石材カルテの作成	石材1点ごとの規模・形状、加工の痕跡を記録。石材再利用の判定。	第2面	令和8年
16	発掘調査	解体箇所の背面盛土調査を実施。	第2面	令和8年
17	修復方法の検討	石垣の復元形状の検討。弱点の克服の検討。積み直しのための設計。	第2面	令和8年
18	修復作業（積み直し）	文化財石垣として伝統工法で修復。 （令和8年度⇒第3面、令和9年度⇒第1面・第2面）	第1面 第2面 第3面	令和8年、9年
19	土地の公有地化（追加分	修復範囲の拡大に伴う追加買い上げ	第1面 第3面	令和9年
20	一般公開のための整備事	石垣天端箇所の整備工事（舗装等）の実施。報告書の刊行。竣工図の作成。	第1面 第2面 第3面	令和9年
21	修復完了	一般公開。講演会等を開催し情報発信。		令和10年

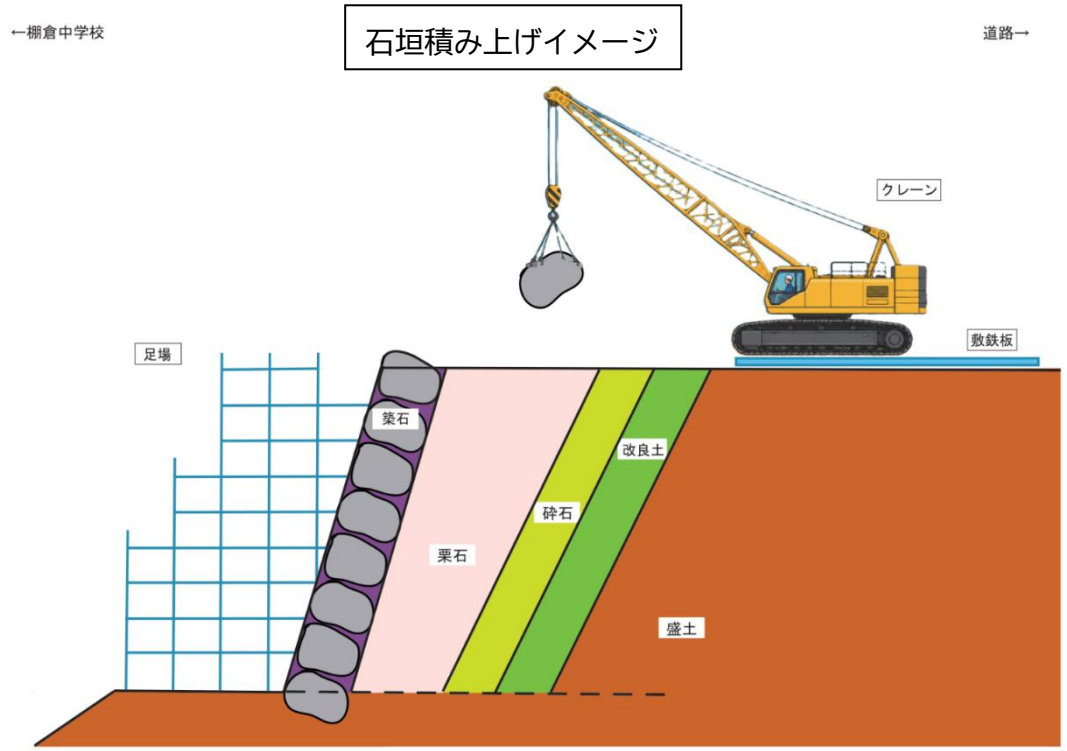
３.棚倉城跡の石垣の特徴について

棚倉城跡の石垣は、野面石主体の「布積み崩し」で、随所に「鏡石」を配するなどの文禄・慶長期の石垣のような古式の特徴を有しています。石材については砂岩を中心に、安山岩や片麻岩などで構成されています。石材（築石）の表面には加工痕があるものも多く、一部には矢穴も確認されています。また、裏面（控え）は表面と比べても多くの石材に加工痕が見られます。

４.石垣積み直しの原則と工夫した点

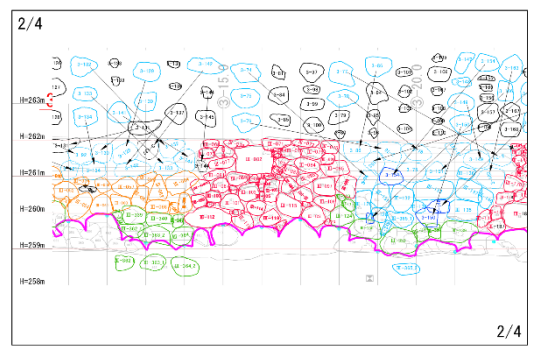
現在行っている工事は、国指定史跡内での災害復旧工事です。そのため、被災前の状態に戻すのが原則となります。今回の工事では、過去の写真や、石材の崩落位置の推定結果を基に積み直しの下図を作成し、既存石垣と意匠に違いが出ないよう職人さんの手で丁寧に積んでいます。また、石材１つ１つも文化財であり再加工できないため、丸みのある野面石を上手く噛合わせ、荷重がかかるように工夫する必要があります。さらに積んだ石材（築石）の間に、間詰石と呼ばれる小形の石を充填し、石材（築石）を支える役割を持たせます。こちらも隙間に合うサイズを選びながら施工していきます。

石垣は築石・裏込石（栗石）・盛土の３層から成っているため、表面に見える築石だけではなく、裏込石・盛土の背面構造がとても大切です。今回の工事では、昨年度の石垣解体工事の際に出土した裏込石を再利用し、密度を高めるために手込めで充填しています。また、裏込石（栗石）の背面に土砂の流入を防ぐため砕石層を設け、さらにその背面には強度改良を施した改良土を一部施工しています。



石垣積み上げの順番

①附番図の作成



②仮置場からの石材運搬



③積み上げ



④間詰石の充填



⑤裏込石の充填



⑥背面の補強等



石垣の加工や積み上げに使用される道具と使用の様子



道具類
（今回の工事では石材の傾き調整等のみに使用）



調整の様子